

2022年度 高槻中学校・高槻高等学校 学校評価

1 めざす学校像

■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)としての教育活動およびコース制の充実

指定2期4年目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校としては「データサイエンスの素養を持ち先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、6年間取り組んできたSGH事業を引き継ぐSGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)参加校としては、「大阪医科薬科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入9年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンス)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後、コースの特性に応じた教育プログラムのより一層の充実を図っていく。

② School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③ 高大連携の教育プログラムの充実

本校は、同一法人である大阪医科薬科大学との連携、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定、SGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)の参加というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④ 「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、次期学習指導要領、それを踏まえた大学入試改革のキーワードにもなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として[知識・技能]、[思考力・判断力・表現力]、[学びに向かう力・メタ認知]が挙げられている。自己評価では、深い学びが実現できているという項目の自己評価項目6が92%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、推論による検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録するポートフォリオを活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、全学年で年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

⑥ 徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道德教育を継続的に行っている。共学6年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切に指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は改善しているが(項目24が2018年度62%→2019年度72%→2020年度81%→2021年度79%→2022年度79%)、今年度も継続して取り組んでいく。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道德教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していく。

⑦ 社会貢献活動としてのボランティアの推進

2016年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑧ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が必要不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。大学入試改革、学習指導要領の改訂をふまえ、教育活動の深化、協働性を高める取り組みを実践していく。

⑨ ICT利活用教育の推進

これからの高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2022 年実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>(1) 【教員の評価より】 【回答数 2022 年度 72・2021 年度 72・2020 年度 42】</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善傾向 30 項目中 0 項目 (昨年 4 項目) * 改善項目 30 項目中 9 項目 (昨年度 30 項目中 17 項目) * 評価 90%以上の項目 15 項目 (昨年度 23 項目) <li style="padding-left: 20px;">80%以上の項目 29 項目 (昨年度 29 項目) * 70%未満の項目 0 項目 <p>自己評価 80%以上の項目が 30 項目中 29 項目と昨年同様、高い評価となった。70%未満の項目はないものの、「掃除指導の充分取り組んでいるか」が 79%と 80%を下回る回答となった。全体的に高い数値となっているため経年比較で大きくプラスした評価はなかった。</p> <p>(2) 【生徒の評価より】</p> <p>中学生 有効回答数 681</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善傾向 30 項目中 1 項目 (昨年度 30 項目中 0 項目) * 90%以上の評価を受けた項目 11 項目 (昨年度 15 項目) <li style="padding-left: 20px;">80%以上の評価を受けた項目 27 項目 (昨年度 28 項目) * 中学全体の経年比較プラス評価 10 項目 (昨年度 14 項目) * 70%未満の項目 1 項目 (昨年度 0 項目) <p>全体的には 80%以上の評価項目が 30 項目中 27 項目で、経年比較でもプラス評価は 10 項目と高い評価を受けている。70%未満の項目としては、「生活指導の方針に共感できるか」が 67%であった。また、学年比較 5%以上のマイナス評価として 80%を下回る評価は、「学校の生活指導は適切ですか」(中 3 項目 6 : 70%/78%)、「学校は個人面談など生徒の話を聞く機会を設けていると思えますか」(中 3 項目 7 : 78%/86%)、「学校は社会のルールや社会性が身につくような指導を十分にを行っていますか」(中 3 項目 11 : 78%/89%)、「生活指導の方針に共感できますか」(中 3 項目 12 : 57%/67%)、「学校は生徒の活動を活性化するような工夫をしていますか」(中 3 項目 17 : 78%/85%) など、中学 3 年生の生活指導に関する評価について 80%を下回る項目がみられた。経年比較 10%以上の改善項目は「学校は地震や火災などが起こった場合について、どうすべきかをよく知らせていますか」(項目 28 : 79%→90%)であった。</p> <p>高校生 有効回答数 610</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善傾向 30 項目中 0 項目 (昨年度 0 項目) * 90%以上の評価を受けた項目 9 項目 (昨年度 4 項目) <li style="padding-left: 20px;">80%以上の評価を受けた項目 26 項目 (昨年度 25 項目) * 高校全体の経年比較プラス評価 24 項目 (昨年度 25 項目) * 70%未満の項目 2 項目 (昨年度 1 項目) <p>全体的には 30 項目中 26 項目が 80%以上の評価を受けている。70%未満の項目が 2 項目みられた。「生活指導は適切か」(項目 5 : 77%→65%)、「生徒指導の方針に共感できますか」(項目 11 : 67%→55%)という評価であった。学年比較 5%以上のマイナス評価項目は、「学校の生活指導は適切ですか」(高 2 項目 5 : 51%/65%)、「生活指導の方針に共感できますか」(高 2 項目 11 : 41%/55%)しかし、学年比較のプラス評価項目では、「学校の生活指導は適切ですか」(高 3 項目 5 : 78%/65%)「生活指導の方針に共感できますか」(高 3 項目 11 : 71%/55%) など高 3 生徒と他学年の生徒の差がみられた。</p> <p>(3) 【保護者の評価より】</p> <p>中学保護者 有効回答数 646</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善傾向 30 項目中 2 項目 * 90%以上の評価を受けた項目 6 項目 * 80%以上の評価を受けた項目 23 項目 * 中学全体での経年比較 5%以上のマイナス評価項目 0 項目 (昨年 3 項目 9・12・28) * 70%未満の項目 2 項目 <p>+10%以上の改善項目は、「学校は、保護者と話をする機会を適切に設けていますか」(項目 27 : 75%→87%)と「学校では保護者会活動が活発ですか」(項目 28 : 75%→89%)の 2 項目であった。90%以上の項目として、項目 1「学校は、教育方針をわかりやすく伝えていきますか」、項目 19「学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいますか」、項目 21「学校は、社会のルールを守る態度を育てようとしていますか」、項目 24「学校の施設・設備は学習環境面においてほぼ満足できる環境にありますか」、項目 25「学校が保護者に出す文書・事務連絡などの量および内容は適切ですか」、項目 26「学校では、子供に関する個人情報を守られていますか」であった。</p> <p>しかし、学年比較 5%以上のマイナス評価項目として、「子供は、授業が楽しくわかりやすいと言っていますか」(中 2 項目 3 : 66%/76%)、「学校の生活指導の方針に共感できますか」(中 3 項目 8 : 78%/84%)、「先生は、子供をよく理解していますか」(中 2 項目 13 : 75%/81%)、「学校でのクラブ活動は適切に活動していると思えますか」(中 2 項目 18 : 66%/72%)がみられた。</p> <p>高校保護者 有効回答数 574</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善項目 30 項目中 0 項目 * 90%以上の評価を受けた項目 4 項目 (昨年度 8 項目) * 80%以上の評価を受けた 20 項目 (昨年度 22 項目) * 高校全体での経年比較プラス評価 9 項目 (昨年度 23 項目) 	<p>2022 年度に実施された学校評価アンケート結果について、以下の通り意見を申し述べます。</p> <p>1. はじめに</p> <p>教職員、生徒、保護者のいずれにおいても、ほぼすべてのアンケート項目についてプラス評価の回答が 70%以上を占めていることは高く評価できるものと考えます。</p> <p>一方で、統計という性質上、学年比較又は経年比較で 10%以上超えるマイナスが生じているものは、特に注視が必要であることはいまでもありません。以上を踏まえつつ、以下、各論に触れます。</p> <p>2. 教職員へのアンケート結果より</p> <p>2021 年度から 2022 年度にかけてプラス評価の回答率が同一又は増えたものは 13 項目で、プラス評価の回答率が減ったものは 17 項目よりも低くなっています。ただ、10 ポイント以上の減となった項目は無く、概ね現状維持と評価できるものといえます。</p> <p>2020 年から 2 年連続で減少となっている項目は、項目 19、26、29、30 と 4 項目あります。これらと前年度から 5%以上のマイナスとなった項目(9、12、13、20、26、27)は注視が必要であるといえるでしょう。</p> <p>3. 生徒へのアンケート結果より</p> <p>特に高校生については、3 学年平均のプラス評価の回答率が前年度より減った項目は 4 つのみ(そのうち 2 つは 1%のみ減少)で、評価できるものと考えられます。</p> <p>うち、項目 5 の「学校の生活指導は適切か」はマイナス 12%、項目 11 の「生活指導の方針に共感できるか」はマイナス 12%で、これらは中学校についても、3 学年平均の前年度比のマイナスが 8%、11%とマイナスの数値が上位 2 つの項目となっています。加えて高 2 に関しては、項目 5 のプラス評価が 51%、項目 11 が 41%と低い数値となっています。生活指導について厳しいと感じる者もいれば、逆に緩いとする生徒もいると想定され、数値だけでは単純に評価できない面はあるとしても、マイナスの傾向が強い項目である以上、分析と注視は必要と考えるべきといえます。</p> <p>4. 保護者へのアンケート結果より</p> <p>中学保護者については、3 学年平均が前年度より、プラスになっているものがほとんどとなっています。特に、項目 27 の「学校が保護者と話をする機会を適切に設けているか」と項目 28 の「学校では保護者会活動が活発ですか」について、前年度比が 10%以上の増となっています(これらは高校保護者についても増)。コロナ禍によって種々の制約があった中、2022 年度は従来の形に戻りつつある年度でもあったことを示しているように思われます。</p> <p>高校保護者については、経年で特に目立った変化は認められず、現状維持と評価できると考えられます。</p> <p>この点、全学年とも 70%台となっているものは以下のとおりです。</p> <p>【中学について】</p> <p>項目 4 (学習内容認知)、11 (健康相談)、18 (クラブ活動)</p> <p>【高校について】</p> <p>項目 4 (学習内容認知)、5 (到達度別学習)、14 (進路指導)、18 (クラブ活動)とはいえ、90%近くの中学生、高校生は授業が理解や進度に問題がないと回答し、保健室、相談室の充実にも問題がないと回答しています。高校生の進路指導、進路意識の向上についてもプラス評価が 80%台を維持しています。したがって、そこまで問題視すべき状況とは考えられませんが、注視は必要といえるでしょう。</p> <p>あえて述べるとすればクラブ活動の問題と思われれます。クラブ活動についても生徒のプラス評価は 80%台を維持しています。学校生活や部活動に対する捉え方も各家庭で異なり、教職員の労働環境の問題及び進学校という性格によるクラブ活動の限界が背景にあると思われるため一概に評価しにくいところです。ただ、クラブ指導の外部委嘱を進めることによりプラス評価の向上がはかれるのではないかと考えます。</p> <p>5. まとめ</p> <p>以上の次第で、注視すべき点はあるとしても、今回のアンケート結果をみれば、これまでの学校の改善努力が高いレベルで実っているといえ、今後の課題はその維持・継続にあると思われれます。</p>

<p>* 70%未満の項目 0項目</p> <p>+10%以上の項目はみられなかったが、90%以上の評価を受けた項目として、「項目 17 子供は、文化祭、体育祭、野外学習などの学校行事に積極的に参加していますか」、「項目 21 学校は、社会のルールを守る態度を育てようとしていますか」、「項目 24 学校の施設・設備は学習環境面においてほぼ満足できる環境にありますか」、「項目 26 学校では、子供に関するプライバシーが守られていますか」がみられた。学年比較 5%以上のマイナス評価項目は、「学校は、到達度に応じた学習指導を行っていますか」(高1 項目 5 : 63%/71%)、「学校は、将来の進路について適切な指導を行っていますか」(高1 項目 14 : 71%/76%)、「学校は、進路に関する適切な情報提供を行っていますか」(高1 項目 15 : 73%/79%)、「学校でのクラブ活動は適切に活動していると思いますか」(高2 項目 18 : 67%/75%) と 4 項目みられた。</p> <p>【総評】</p> <p>アンケート結果から、生徒、保護者ともに一定の評価が得られていることがうかがえる。学習についての項目をはじめ、生活指導の項目やクラブ活動の項目に、学年によっても差はあるものの課題がみられる。特に 70%以下の項目については、再検討し、アンケート結果を真摯に受け止め、継続して改善に取り組むたい。特に、生活指導の項目については、学校の方針を理解して頂けるよう取り組む必要性を感じている。すべての項目が 80%以上となるよう、学校としての理念や指導方針について情報を発信し、理解を深めていただけるよう教育活動の改善とご家庭との連携に努めていきたい。</p>	<p>また、今回の特筆すべき点としては、前述のとおり、学校と保護者の対話の機会や保護者会活動に対するプラス評価の顕著な増加といえるでしょう。</p> <p>生徒の健全な発育のために保護者と学校の関わりが重要であることはいうまでもなく、アフターコロナの中、これまで以上に、学校と保護者が、生徒の指導教育について円滑かつスムーズに連携し対応し良好な協力関係が構築できることを期待するばかりです。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①SSH、STEAM、SGHNの教育活動	<ul style="list-style-type: none"> (1) SSHの教育活動の充実 (2) SGHNとして教育活動の充実 (3) GL コースの教育活動の充実 (4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上 (5) コース選択に関するガイダグンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 (2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンライン講座 (3) 探究活動の充実、コース研修の企画・実施 (4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアガイダグンス進路講演会「ようこそ先輩」(中1・中2) 選択式進路講演会(中3) (5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明 	<ul style="list-style-type: none"> (1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート (3) 高1、高2生の項目2が85%、項目4が85% (2021 年度項目2が高1は95%、高2は94%、項目4が高1は87%、高2は90%) (4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が90% (2021 年度95%) イ. 中学生の項目20の肯定的評価が85% (2021 年度84%) (5) ア. 中1・中2で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が85% (2021 年度84%) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) SSH研究開発実施報告書の項目、3「学問の先端的な深い内容や最先端の研究のを知りたい」91%、17「自然現象を科学的に捉えられる」87%と肯定的評価を得た。(○) (2) 課題研究において、グローバルヘルスと関連づけて課題を設定し、先行研究を調べ課題の背景や問題点を意識しながら、社会科学的または統計的に資料の収集・分析ができた。(○) (3) 項目2の高1は92%、高2は93%であった。項目4は全体の平均が89%と高い評価を維持できた。 コース別研修は、GLは東京研修。GAはパラオ研修を実施した。GSは台湾研修を変更し沖縄研修を実施。(◎) (4) ア、中学生の項目4「授業の進度や内容は適切だと思いますか」の肯定的評価は94%であった。(○) イ、中学生の項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を計るようつとめていますか」が中学生の平均が86%であった。各進路講演会は全て実施できた(○) (5) ア、中1、中2で各一回計画通り実施した。(○) イ、項目1「学校は教育方針を分かりやすく伝えている」の肯定的評価は94%であった。(○)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">②School Mission の実現を図る教育活動の展開</p>	<p>「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施</p>	<p>ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施 (2021年度は中止) イ. ターム留学(カナダ、アメリカに12月末～3月上旬まで留学) (2021年度は中止) ウ. 特色教育としての英語教育の充実(ケンブリッジ英語)、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む) エ. 英語4技能を測定するGTEC、ケンブリッジ英検の受検(高1) オ. 言語活動の充実 カ. International Young Leaders Advancement Programme(GAコース) キ. コミュニケーション研修(中1) ク. グローバルセミナー ケ. 台湾研修(GAコース) コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティエー高校:パラオ)との提携と交流行事 サ. 海外フィールドワーク(GAコース:パラオ) (2021年度は中止)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各プログラムの実施 自己評価において項目15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が85% (2021年度92%) 	<p>ア. について、2022年度は実施できた。 イ. ターム留学は新型コロナウイルス感染症の影響でカナダのみとし、10名が留学した。 ウ・エ・オ・キ・ク・ケ・コ・サは計画通り実施できた。(○) カ. 新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。 ・自己評価における項目15「グローバルイシューを扱った探究的な教育活動が行われている」が92%であった。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③高大連携の教育プログラムの充実</p>	<p>高大連携の教育プログラムの開発</p>	<p>ア. 大阪医科薬科大学との連携 a) 医学部 SSH事業への支援、SGHN事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室、高大接続課題実習 b) 薬学部 サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座 c) 看護学部 思春期教室 イ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携 ウ. 大阪大学…SSHの活動における連携 エ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携 オ. 東京大学…SSHの活動における連携 カ. 大阪市立大学…博士課程の学生による課題研究の支援 キ. 京都工芸繊維大学…SSH活動の連携 ク. 三重大学・芝浦工業大学…SSH活動における共同研究 ケ. 立命館大学経営学部…GLコース生希望者のアントレプレナーシップ講座 コ. SSH事業での大学研究室訪問 サ. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) ケンブリッジ大学学生とのリーダーシップ研修 c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修 (2021年度は中止)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各連携事業の実施 高1、高2生の項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていている」というの肯定的評価が85%。(2021年度高校生88%) 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪医科薬科大学との高大連携プログラムが充実したかたちで実施できた。(◎) 他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○) スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォードe-Takatsukiを計画通り実施できた。(○) GSコースの台湾研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により沖縄科学技術大学院大学との交流プログラムに変更して実施した。(○) 項目22「学校の教育活動を通して、多様な経験・体験ができていていると思いますか」の肯定的評価が高1は、88%、高2は92%であった。(◎)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">④「探究型学習の充実と資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 資質・能力の三つの柱(「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力・人間性」)の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中1総合学習で行う学びのリテラシー オ. 中2総合学習で行う課題解決型学習 カ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 キ. e-ポートフォリオの作成指導 ク. 学修インタビュー(中学1年～高校2年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教育プログラムの実施 自己評価において項目6「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたら、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が85% (2021年度93%) 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目について計画通り実施した。(○) 自己評価6「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたら、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が92%であった。(○)

<p>⑤高い学力が確かな身に身につく指導と成果の検証</p>	<p>到達目標 (A)難関国立10大学合格者130名 (B)国公立医学部+大阪医大合格者40名 (C)中学卒業時の英語力50%が英検2級</p>	<p>(1)進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア.各学年が取り組む学力向上策 (2)中学段階における学習指導の徹底 ア.セルフマネジメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ.家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3)進路指導部主導による学力向上 ア.模試結果のフィードバックをもとにした復習。模試における目標の明確化。 (4)学習指導部主導による学力向上 ア.日々の学習での基礎基本の徹底 イ.好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5)大学入試対策放課後講座(アフタースクールアカデミック(AA)講座)の更なる充実と受験対策の強化 (6)進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (7)高3三学期の受験指導の強化</p>	<p>(1)各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2)中学生の評価において項目18「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が85% 項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が85% (2020年度項目18が86%、項目20が88%) 中学卒業時の英検2級合格率50%以上 (3)(4)高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が85%(2020年度88%) (5)高2高3で実施 (6)中1、中2、高1で講演会を年1回実施 (7)二次対策講座の組織的な開設</p>	<p>(1)各学年で年間計画を立て学期ごとに職員会議で報告を行った。生徒一人ひとりに目を向けた成績検討会・出願先検討会を実施し、適切な時期に適切な進路指導を行った。(○) (2)中学生の評価において項目18「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が91%であった。(○) 項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が86%であった。(○) 中学卒業時の英検2級合格率43.3%(113名)(△) (3)(4)高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が93%であった。(○) (5)高2高3で予定通り実施できた。(○) (6)中1、中2、高1で講演会を年1回実施した。(○) (7)二次対策講座の組織的な開設に加え、登校日をあらたに設けるなど意欲喚起に努めた。(○)</p>
<p>⑥德育教育の充実</p>	<p>(1)生活の基本を大切にしている指導の徹底 (2)平和学習を目的とした修学旅行の実施 (3)道徳教育の充実 (4)人権教育の推進</p>	<p>(1)生活の基本を大切にする指導の徹底 ア.服装 イ.挨拶 ウ.清掃活動←毎日清掃指導+週2回の全校清掃の実施 (2)平和学習を目的とした修学旅行(中3) (3)中学3年間を通じた系統だった道徳教育 (4)年間計画に基づく人権教育 ア.毎学期1回人権LHRの実施[各学年のテーマ] 中1:他者を理解し、尊重する心を持つ 中2:心身に障がいのある人々の人権を考える 中3:「沖縄」を通して、平和と人権問題について考える 高1:民族・人種などに関わる諸問題について多角的な理解を深める(SDGsを念頭に) 高2:在日外国人に関わる諸問題を中心とした人権問題 高3:進路と人生に関する人権問題</p>	<p>(1)生徒の評価において項目中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」、中学13 高校12「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに85% (2020年度中学11が91%、高校10が82%、中学13が92%、高校12が81%) 自己評価において項目24「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が85% (2020年度81%) (2)系統だった平和学習の実施 (3)中学生の評価において項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が85% (2020年度84%) (4)高校生の評価において項目26の肯定的評価が85% (2020年度84%)</p>	<p>(1)中学項目11、高校項目10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」において、中学89%、高校86%であった。また中学13、高校12「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」が中学89%、高校83%であった。(○) なお、中学、高校生徒会からの要望を受け入れ、一部規則を変更した。 自己評価項目24「清掃活動が行き届いている」が肯定的評価79%であった。(△) (2)予定通り実施できた。(○) (3)中学項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が、92%であった。(○) (4)高校項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が、89%であった。(○)</p>
<p>⑦ボランティア活動の推進</p>	<p>ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実</p>	<p>(1)ボランティア活動支援センターの体制確立 (2)ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動 ア.日本青年赤十字との連携【オンライン】 イ.インターアクトとの連携(地域連携)【オンライン】 ウ.校内・校外企画(クリーンハイク等) (3)生徒募集イベントにおける「T-BEST」メンバーのボランティア活動</p>	<p>(1)年度末報告 (2)50名による活動 ア.年8回 イ.年5回 ウ.年5回 (3)計7回のイベントに延べ130名が参加</p>	<p>(1)ボランティア委員会への指導・助言、外部機関との調整・とりつぎを行う体制が十分に確立されている。(◎) (2)ボランティア委員会に所属する中2以上の生徒58人が随時参加し、ボランティア活動の充実を図っている。(○) (3)新型コロナの影響で、学校説明会、学校・入試説明会、GLオープンキャンパスプロジェクト、計7回の活動に登録者約150名が分担し、積極的に参加し役割を果たした。(○)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ 教員研修の向上を図るための教員研修の実施</p>	<p>教員の指導力および資質の向上</p>	<p>(1) 研究授業の実施(年2回) (2) 主体的・対話的で深い学びに関する研修(全教員+各教科の推進メンバーを対象としたワークショップ) (3) 公開研究会の実施 (4) 学びあい週間の実施 (5) 教員向け人権研修会 (6) いじめ防止教員研修会 (7) 5年経験者研修 (8) 新人研修</p>	<p>(1~2) 自己評価において項目27「他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が85% (2020年度88%) (3) 年1回 (4) 年1回 (5) 年1回 (6) 年1回 (7) 年間を通じて4項目実施 (8) 年間を通じて全15回</p>	<p>(1・2) 自己評価の項目27「他の教員の授業を見学したり、研修を受けたりする機会がよく設けられている」の肯定的評価が89%であった。(○) (3) 新型コロナの影響を受け実施できなかった。 (4) から(8)の研修は計画通り実施した。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨ ICT活用教育の推進</p>	<p>BYODによるICT教育の充実</p>	<p>ICT活用教育推進委員会を中心としたICT活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築 イ. オンラインの教育への有効活用 ウ. 学習用デバイスの使用に関するルールの改正 エ. 校内環境の整備、システムの構築 オ. ICT活用教育推進委員会による教員研修、生徒支援、広報活動</p>	<p>・推進委員、新任教員を対象とした教員研修の実施 ・オンライン会議システムを利用したセミナー等の実施 ・中3~高2(希望者)にオンライン学習の整備 ・教員、生徒のICT利活用を支援する体制の確立</p>	<p>・ICT活用の教員を各学年に配置し、機動的に利活用を促進する体制を整え、各教員のスキルやニーズに応じて、実践力の向上に努めた。(○) ・SSセミナーの一部をオンラインで実施した。(○) ・生徒のニーズに合わせてオンライン学習を提供した。(○) ・デバイスの使用ルールについて、改訂を重ね現状に即した指導を行った。(○)</p>